

第六十二回 楠公回天祭御案内

我国は独立を回復して七十三年。ロシアのウクライナ侵攻は四年目に突入し、ハマスのテロ攻撃を契機とするイスラエルのガザ地区侵攻も終息の兆しがありません。東アジアにおいても、中国は覇権拡大を目指し、経済力、軍事力を増大させ、台湾統一や南シナ海域独占等、実力行使による現状変更の野心を隠さず、尖閣・沖縄への圧力も常態化してゐます。加へて我国の同盟国である米国が自国第一主義を掲げて極端な政策を推進し、情勢の混乱に拍車を掛けてゐます。国内では自公政権が少数与党となり、改憲勢力も後退の為体、正に内憂外患の状況ですが、手をこまねいてゐる暇はありません。国家国民のためいまこそ立場の違いを越え、憲法に緊急事態条項を設け、自衛隊明記を実現しなければなりません。

顧みますと、人間魚雷「回天」を創案されました黒木博司少佐が、樋口大尉操縦の回天第一号艇に同乗指導中、海底に沈座されたのは昭和十九年九月六日夕刻、絶命殉職されたのは、七日早暁でありました。その後、十一月二十日、上別府大尉・仁科中尉・宇都宮少尉ら九士による菊水隊の突入を皮切りに、『大楠公を仰ぎ、黒木・仁科に続け』を合言葉として、回天の勇士らは若い命を捧げられました。回天勇士の悲願は、黒木少佐の有名な血書の嘆願書『急務所見』の中で述べられた「皇国ヲ護持シ、以テ一日モ早ク聖慮ヲ安ンジ奉ルベキナリ」にあるかと拝察します。

敗戦後、黒木家の宅葬は昭和二十年十一月六日、平泉澄博士が『皇国に 幸しありせば いしぶみに 黄金ちりばめ 琅玕の 墓をも立てて いさをしは 村々伝へ ロ々に ひろく讃へむ』と弔つてをられます。お墓は、昭和三十一年九月六日に建立されました。『楠公社』は昭和三十九年九月二十七日に、黒木少佐の故郷、岐阜県下呂市の信貴山に初代祭主平泉澄先生が『楠公社 合祀回天殉道忠士』として勧請、鎮座されました。

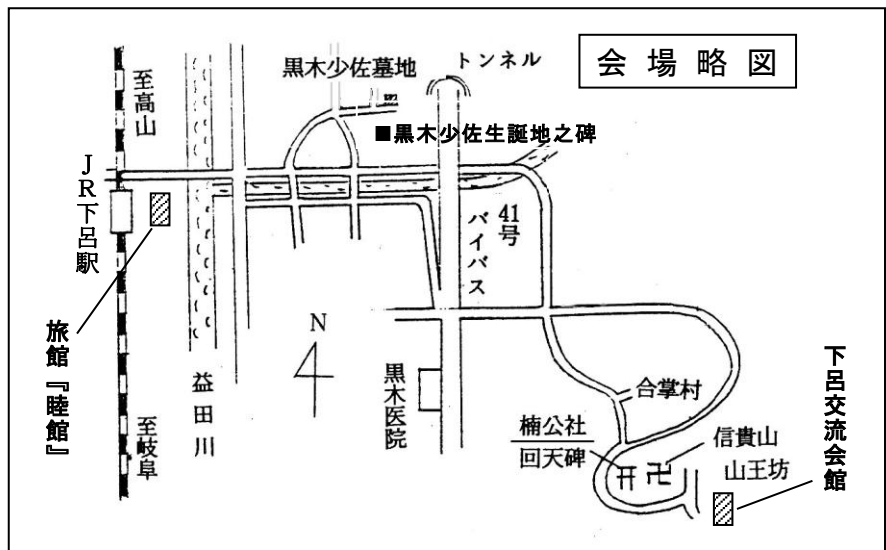
邦家は回天勇士の願ひに反し、まさに累卵の危機にあります。私共は平泉澄先生のご精神を仰ぎ、手を取り合つてこの国難に立ち向かはねばなりません。今年は昭和百年、終戦八十年といふ節目の年に当たります。いまこそ楠公と黒木少佐のご精神に学ぶべく、湊川神社広報室長の鈴木智子氏を講師にお迎へし、別記の通り祭典及び講演会を開催いたします。皆様、何卒お誘ひ合はせの上ご参拝ください。

回天楠公社奉賛会幹事 笠井典夫・村瀬陽一・横山 泰

令和七年七月吉日

記

- 一、期 日 令和七年九月十四日（日） 午前十時 祭典開始
- 一、祭典会場 回天楠公社（飛騨信貴山山王坊境内・下呂駅からタクシー八分）
- 一、講演会 演 題「黒木少佐と楠公精神」 午前十一時～正午
講 師 湊川神社広報室長 鈴木智子（すずきともこ）氏
- 一、講演会場 下呂交流会館マルチスタジオ（祭典会場から徒歩五分）
- 一、直 会 右同所 午後〇時一〇分～一時三〇分
- 一、展 覧 右同所「黒木少佐御遺品」（複製） 午前十一時～午後一時三〇分
- 一、会 費 玉串料 二，五〇〇円
- 一、宿 泊 直 会 一，〇〇〇円（弁当代。学生・生徒は無料）
九月十三日（土）旅館「睦館」（J R下呂駅から徒歩二分）
一泊二食税込 二一，〇〇〇円（学生は五，〇〇〇円）
一泊朝食税込 一三，〇〇〇円
- 一、申込み 宿泊予約は事務局（左記）でまとめて行ひます。（予約金不要）
宿泊希望、献詠等を八月二十五日までにお知らせください。
（事務局）回天楠公社奉賛会 坂口浩之
〒五〇〇・八八一四 岐阜市今川町二・三
電話・FAX 〇五八・二六三・八九四五
- 一、連絡先 Eメール za83745@jk9.so-net.ne.jp
- 一、備考 郵便振替口座番号・加入者名『00890・9・190871
（郵便振替の手数料をご負担願ひます。）
発熱又は体調不良の方は参加ご遠慮ください。
宿泊申込後の変更はお早めにお知らせください。



坂口浩之』

以上